

平成29年度 教育事業
自然体験活動指導者養成講座（1年目）

1 事業概要

受講者は3日間、国立大洲青少年交流の家敷地内の「鶺ヶ森」を活動の中心として、インタープリテーションについて学んだ。屋内での活動は、大半をワークショップ形式とし、受講者自らが考え、発言する主体的な活動を中心に進めた。最終日にはグループに分かれ、それぞれが考案したインタープリテーションを実演した。



2 事業の目的（ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験指導者（NEALリーダー）を育成する。

3 企画・運営のポイント

機構の法人ボランティア資格も取得できる内容とはせず、3日間1回の講座でNEALリーダーの認定試験を受講できる講座とした。法人ボランティア養成講座との単位読み替えが可能な部分を前半に設定し、法人ボランティアの資格をすでに取得している参加者は、2日目からの1泊2日の参加で認定試験を受けられるように企画した。屋外でのフィールドワークや、参加者グループでのワークショップなど、活動を通して学びを深められるような演習を組み立てた。

4 期待される効果

参加が1回で済むため、NEALリーダーの取得のみを目的とした受講者からの申し込みを見込める。また、大半が学生である大洲の法人ボランティアも参加しやすく、法人ボランティアのスキルアップ研修として周知しやすい。屋外での実習により、五感を通してインタープリテーションの技術について理解が進み、参加者同士の交流によってお互いに刺激を受け、学びが促進されることが考えられる。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 後 援 大洲市教育委員会

7 期 日 平成29年12月1日（金）～3日（日）

8 場 所 国立大洲青少年交流の家

9 対象 国公立・財団等の青少年教育施設職員、青少年教育に係る指導員やリーダー、都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員、教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18歳以上）

10 参加人数 19名（定員20名）

11 参加費 【2泊3日参加者】3,780円 【1泊2日参加者】2,270円

12 講師 菊間彰氏（一般社団法人をかしや代表）、国立大洲青少年交流の家職員

13 日程

【1日目：12/1】

12:30～ 集合・受付（参加者①：2泊3日）

13:00～ 開講式・ガイダンス①0.5H

14:00～ 講義・演習1「自然体験活動の技術（野外炊飯による夕食含む）」4.0H

19:00～ 講義2「青少年教育における体験活動」1.5H

【2日目：12/2】

9:00～ 演習3「自然体験活動の安全管理」3.0H

12:30～ 集合・受付（参加者②：1泊2日）

13:00～ ガイダンス②0.5H

13:30～ 講義・演習4「対象者理解」1.5H

15:30～ 講義・演習5「自然体験活動の技術（インタープリテーション技術）」2.0H

19:00～ 講義6「自然体験活動の指導」1.5H

【3日目：12/3】

9:00～ 講義・演習7「自然体験活動の特質（インタープリテーション実習）」3.0H

13:30～ 認定試験0.5H・ふりかえり・閉講式

14 活動内容

【1日目】

1日目は、法人ボランティアの資格がない社会人を中心に、10名が講座を受講した。開講式に引き続き、認定講師である梅津次長が、ガイダンス①としてNEALリーダー養成講座の大まかな流れや仕組みについて説明を行った。

ガイダンス後は「自然体験活動の技術」として、所員がアイスブレイクと野外炊飯の指導を行った。アイスブレイクでは受講者の緊張を解きほぐしながら、アイスブレイクの意義や実施上の注意点についても説明が行われた。野外炊飯はダッチオープン料理とビニール袋炊飯に取り組んでもらった。受講者は野外炊飯を通して、刃物を取り扱う際の軍手の使い方や、自然にダメージを与えない焚火の仕方についても学んだ。

夜の講義として、菊間氏による「青少年教育における体験活動」の講義が行われた。機構が公表している「青少年の体験活動等に関する実態調査」や「自然体験と道徳観・正義感の関係」や青少年の抱える課題についても言及があり、受講者は自然体験活動の意義について再認識した様子であった。

【2日目】

2日目午前は「自然体験活動の安全管理」として、リスクやハザードの区別など安全管理に役立つ考え方を一通り学び、野外炊飯場付近でリスクやハザードを見つけるフィールドワークを行った。受講者からの発表の後、講師の菊間氏からファーストエイドキットの紹介や、応急処置の方法について具体的な説明があった。

午後からは法人ボランティアの資格をもった受講者が9名加わり、梅津次長によりガイダンス②として、より詳しく指導者認定制度の仕組みと役割について説明があった。引き続き「対象者理解」として、菊間氏の指導によるグループワークに受講者全員が取り組みながら、対象者理解の方法とその効果について理解を深めていった。休憩後、野外炊飯場の裏手にある鶉ヶ森にて、菊間氏によるインタープリテーションを受講者が体験した。

夜は「自然体験活動の指導」として、ナイトハイクを行った。当日は満月ではあったが雲が多く、受講者は暗い森を散策することで、日頃使っていない視覚以外の感覚が研ぎ澄まされたようであった。

【3日目】

最終日の午前中は「インタープリテーション実習」として、これまでの講義や演習の成果を生かし、鶉ヶ森にて4～5人の班に分かれ、それぞれが考えたインタープリテーションを他の受講者に体験してもらう内容とした。どの班も、そのまま採用できるような完成度の高いプログラムを考案して実演できた。昼食休憩後に認定試験と振り返りを行い、3日間の養成講座を終えた。

16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：100% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 計画・実行・評価と、段階を踏んでしっかり実施できたので、これからは生かせると感じた。
- 活動する・しないでこんなにも差が生じるのだと実感し、改めて参加することの大切さを知った。
- 様々な地域・年齢・バックグラウンドの方々と出会えて、素晴らしい3日間だった。

17 事業の成果

今回の受講者19名のうち、初日から受講した10名は、社会教育施設職員と資格取得を目的とした社会人、学生であった。2日目からの受講者した9名は、全員が当施設で法人ボランティアとして活動する学生もしくは社会人であり、法人ボランティア養成講座の読み替え部分を前半に配置した企画は、それぞれのニーズを満たしたと考える。

また、受講者は様々な実習を通して学ぶ気持ちを喚起され、意見交換を通して互いに刺激を受けていたことが、アンケートの回答から読み取れた。

18 事業の課題

当施設としてはこの養成講座の企画と運営が初めてであったため、所員が担当する割合が少なくなってしまった。今回の講座で多くの所員がインタープリテーションについて学び、また、施設周辺の自然を使って、様々な自然体験を行えることを再確認できた。普段の研修支援活動や企画事業で経験を積みつつ、次年度の養成講座にて所員の担当する講義もしくは演習部分を増やしたい。

(担当：主任企画指導専門職 来田 淳)